

1 市内の温室効果ガス排出量の推移と内訳

- 市内で排出された2020年度の温室効果ガス総排出量は1,047万t-CO₂と、前年度の1,121万t-CO₂と比べ6.6%(74万t-CO₂)減少している
- 計画の基準年である2016年度比12%(146万t-CO₂)減となっており、2030年目標の達成まで2020年比49% (510万t-CO₂)の削減が必要
- 家庭・業務・運輸の3部門で市内CO₂排出量の約9割を占めており、前年度と比較すると家庭部門では21万t-CO₂増、業務部門では16万t-CO₂減、運輸部門では33万t-CO₂減

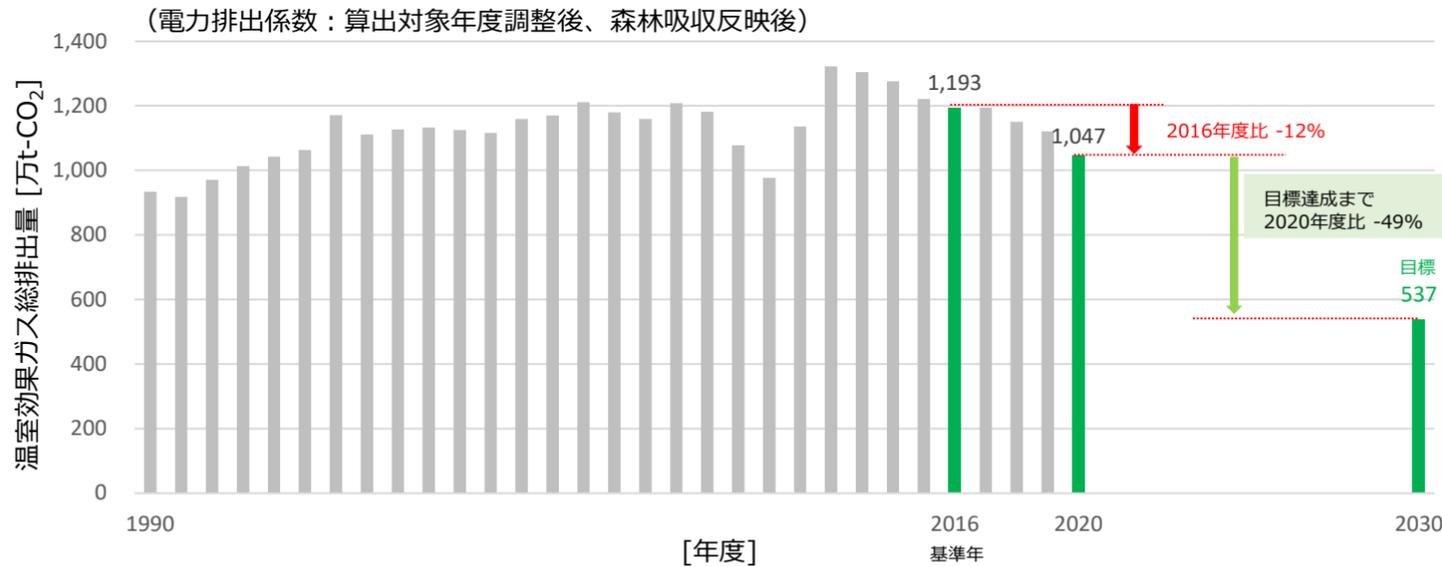


図1 市内の温室効果ガス総排出量の推移

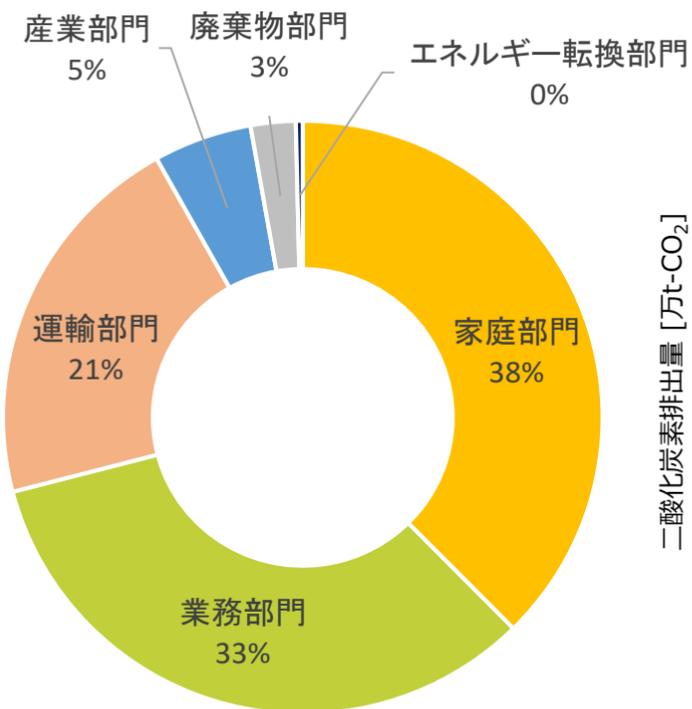


図2 市内の二酸化炭素排出量の部門別内訳 (2020年)

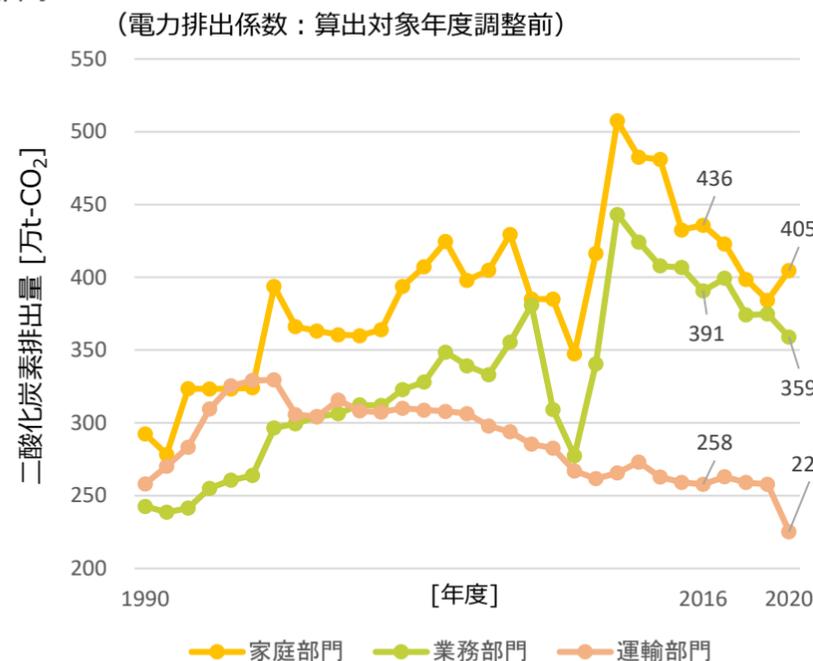
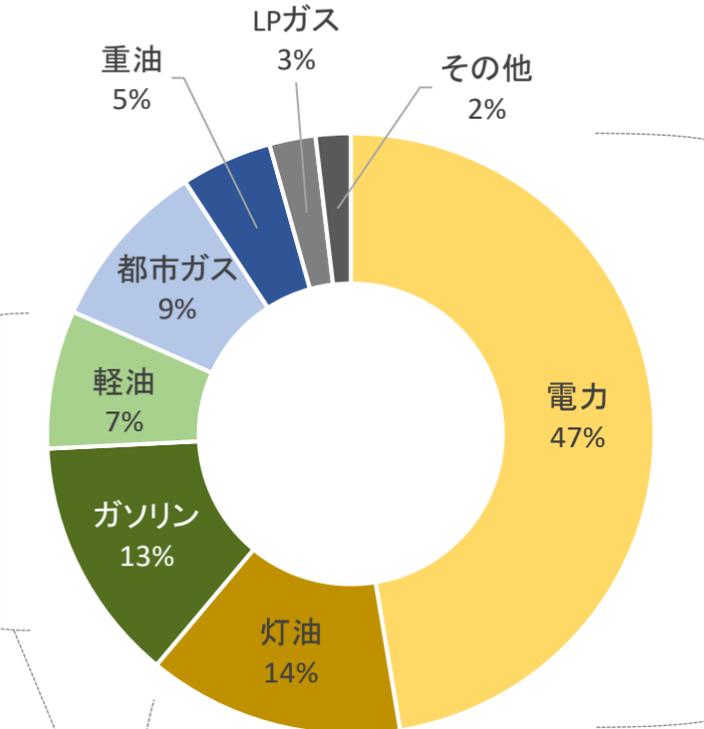


図3 市内の二酸化炭素排出量の部門別推移

- 【電力由来二酸化炭素排出量】 家庭部門が40%、業務部門が50%
- 【灯油由来二酸化炭素排出量】 家庭部門が95%
- 【ガソリン及び軽油二酸化炭素排出量】 運輸部門が97%

図4 市内の二酸化炭素排出量のエネルギー種別内訳 (2020年)



ガソリン及び軽油

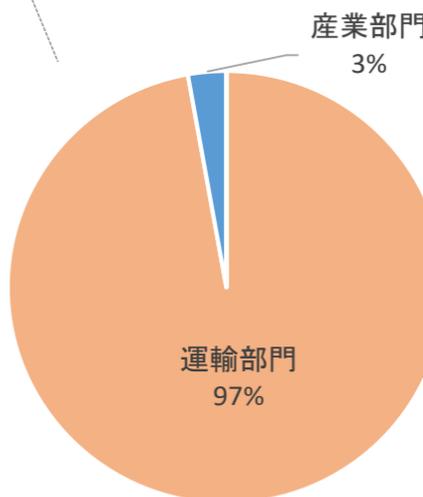


図6 ガソリン及び軽油由来の二酸化炭素排出量の部門別内訳 (2020年度)

電力

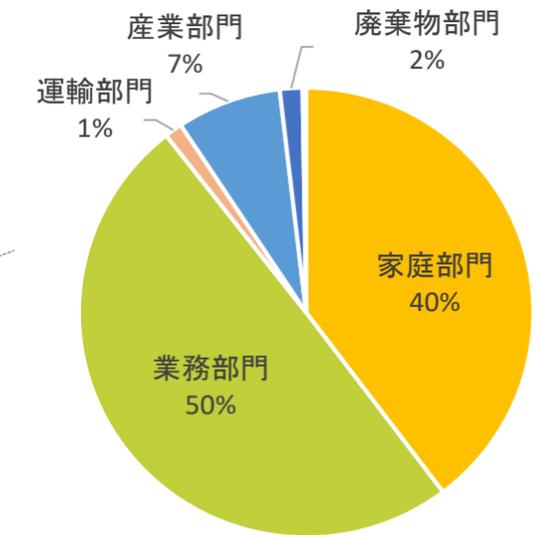


図5 電力由来の二酸化炭素排出量の部門別 (2020年度)

灯油

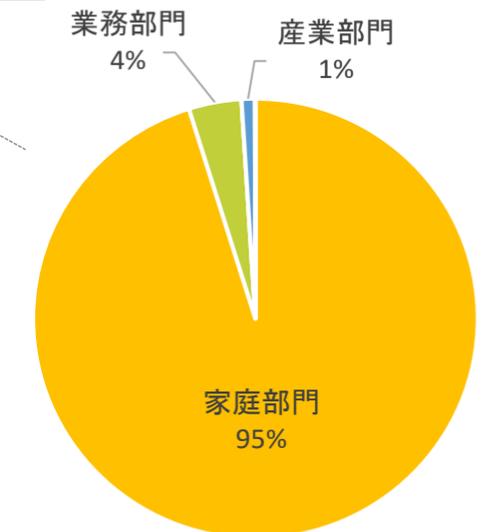


図7 灯油由来の二酸化炭素排出量の部門別内訳 (2020年度)

2 市役所の温室効果ガス排出量の推移と内訳

- 市役所で排出された2020年度の温室効果ガス総排出量は62.9万t-CO₂と、前年度の67.4万t-CO₂と比べ6.7%(4.5万t-CO₂)減少している
- 計画の基準年である2016年度比13%(9.7万t-CO₂)減となっており、2030年目標の達成まで2020年比54%(33.7万t-CO₂)の削減が必要
- 学校・市民利用施設・庁舎等で4割弱、上下水道・交通・道路や廃棄物処理施設等のインフラで約6割
- エネルギー種別内訳では、電力が5割を超えている

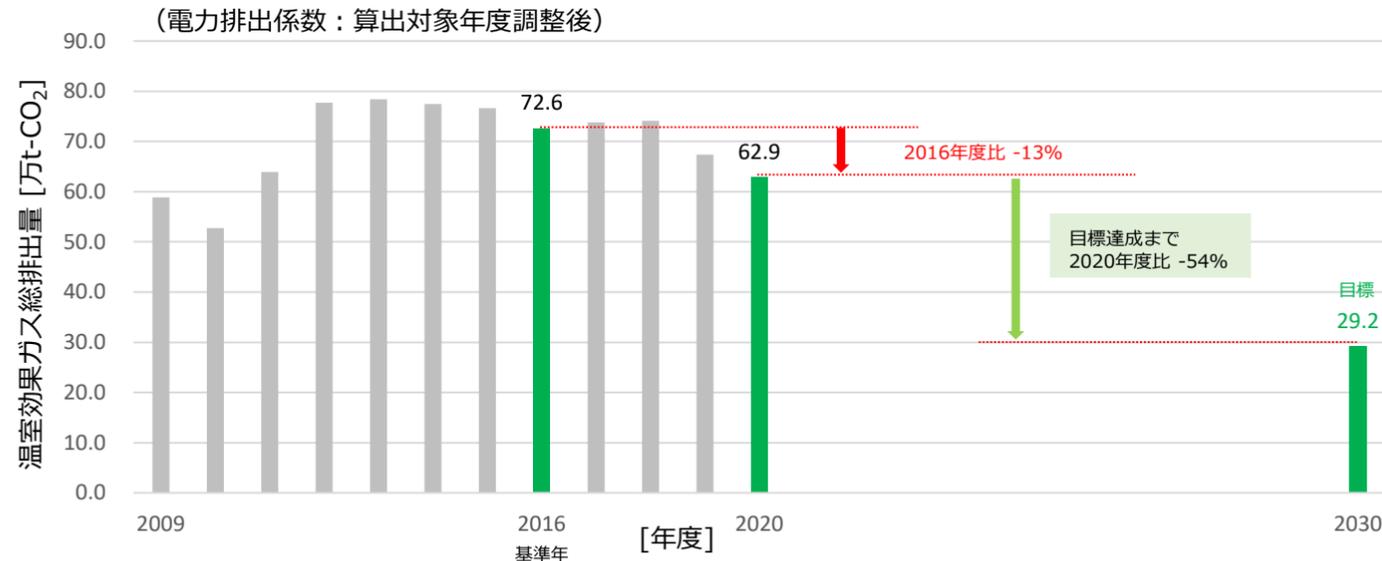


図7 市役所の温室効果ガス総排出量の推移

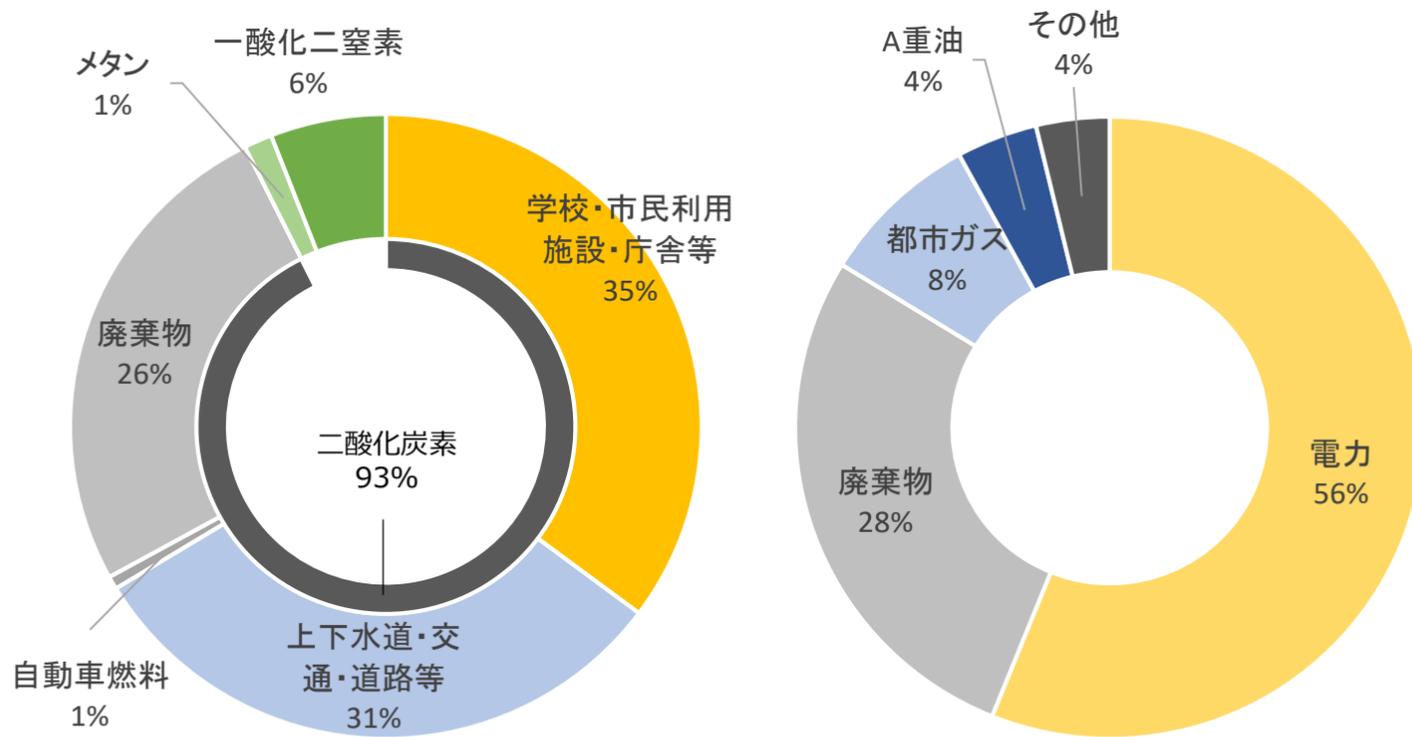


図8 市役所の温室効果ガス排出量の用途別内訳 (2020年)

図9 市役所の二酸化炭素排出量のエネルギー種別内訳 (2020年)

3 成果指標の進捗状況

表1 成果指標の進捗一覧 (2020年度)

施策	成果指標【市民・事業者編】	2016年 (基準)	2020年	2030年 (目標)
[省エネ] 徹底した省エネルギー対策	ZEH相当以上の省エネ性能を持つ新築住宅の割合	戸建:54% 集合:-%	戸建:60% 集合: 3%	戸建:80% 集合:80%
	電気・ガスをエネルギー源とする暖房機器の割合	33%	39%	80%
	電気・ガスをエネルギー源とする給湯機器の割合	60%	63%	73%
	LED照明の割合	30%	46%	100%
	ZEB相当以上の省エネ性能を持つ新築建築物の割合	※ -%	2%	80%
[再エネ] 再生可能エネルギーの導入拡大	市内の電力消費量に占める再生可能エネルギーの割合	24%	24%	50%
[移動] 移動の脱炭素化	市内の自動車保有台数に占める次世代自動車の割合	10%	18%	60%
[資源] 資源循環・吸収源対策	市内ごみ焼却量	43.8万t	43.8万t	39.2万t
	間伐等の森林整備を実施した森林の面積	650ha	779ha	1,100ha

施策	成果指標【市役所編】	2016年 (基準)	2020年	2030年 (目標)
[省エネ] 徹底した省エネルギー対策	ZEB相当以上の省エネ性能を持つ新築・改築建築物の割合	※ -%	0%	80%以上
[再エネ] 再生可能エネルギーの導入拡大	市有施設の電力消費量に占める再生可能エネルギーの割合	29%	31%	80%
[移動] 移動の脱炭素化	公有車台数に占める次世代自動車の割合	13%	20%	63%
[資源] 資源循環・吸収源対策	市内ごみ焼却量	43.8万t	43.8万t	39.2万t

※ 過年度における実績値を把握していないものを「-」と表記

4 主な取組の実施状況

表2 主な取組の実施状況 (2021年度)

施策	2021年度の実施状況 (緩和策)	
	市民・事業者編	市役所編
省エネ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ZEH・ZEBの推進 ✓ 「ZEB・ZEH-M設計支援補助金制度」による建築主への補助を実施 ✓ 「札幌版次世代住宅基準」に適合する住宅の認定及び建設費の補助を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市有施設・設備の省エネ化 ✓ 市有施設におけるZEB化を推進する体制構築を進めるとともに、調査・検討を実施 ■ 設備機器の効果的な運用 ✓ 新たに市有施設70施設に電力見える化機器を設置
再エネ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 建築物等への再生可能エネルギー導入の推進 ✓ 「再エネ省エネ機器導入補助金制度」「再エネ機器導入初期費用ゼロ事業補助金制度」による補助を実施 ■ 地域への再生可能エネルギー導入の推進 ✓ 再エネを活用した水素調達の仕組みの構築及び水素モデル街の形成について検討 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業者による再エネ導入 ✓ 設置対象施設6施設において、公募にて事業者を選定 ■ 環境に配慮した電力契約の検討 ✓ 市有施設全ての電力調達において環境配慮型電力契約に適合するよう要綱を改正 ■ 市有施設「RE100化モデル事業」の検討 ✓ 市民・事業者への再エネ電力の普及啓発に繋がるモデル施設を選定
移動	<ul style="list-style-type: none"> ■ ゼロエミッション自動車の普及推進 ✓ 「札幌市次世代自動車購入等補助制度」による電気自動車 (EV)、燃料電池自動車 (FCV)、V2H充電設備等の導入補助を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 公用車の次世代自動車への切替 ✓ 「公用車の次世代自動車導入指針」を改定し、公用車を導入する場合は、原則、次世代自動車とすることなど導入基準を見直し
資源	<ul style="list-style-type: none"> ■ 省資源・資源循環の推進 ✓ 市民団体や事業者と連携して、簡易包装やレジ袋削減などを推進 ✓ ごみ減量キャンペーン (食品ロスの削減や生ごみの水切りなどの啓発) の実施 ■ 森林等の保全・創出・活用の推進 ✓ 私有林における間伐等の森林整備を支援するため補助事業を創設 ✓ 市有林において間伐等を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境マネジメントシステム ✓ 札幌市環境マネジメントシステム (EMS) における環境方針を見直し、市役所内の廃棄物の発生・排出を抑制し、省資源・資源循環を推進 ■ 道産木材の利用 ✓ 学校や児童会館、公園施設の改築や改修工事において道産木材を利用
行動	<ul style="list-style-type: none"> ■ ライフスタイルの変革・技術革新 ✓ 市立小中学生への「エコライフレポート」配付による、夏休み・冬休みのエコ行動推進 ✓ 気候変動対策に主体的に取り組む人材の育成を目的としたゼミ・ワークショップを開催 ✓ 「環境 (エネルギー) 技術・製品開発支援事業」により、技術・製品開発の取組に対する支援を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境マネジメントシステム ✓ さっぽろエコスタイル (クールビズ・ウォームビズ) の実施や庁舎内での階段使用など職員による省エネ行動を推進 ✓ 「札幌市グリーン購入ガイドライン」「札幌市公共工事環境配慮ガイドライン」などに基き、環境負荷の少ない製品やサービスの利用を推進

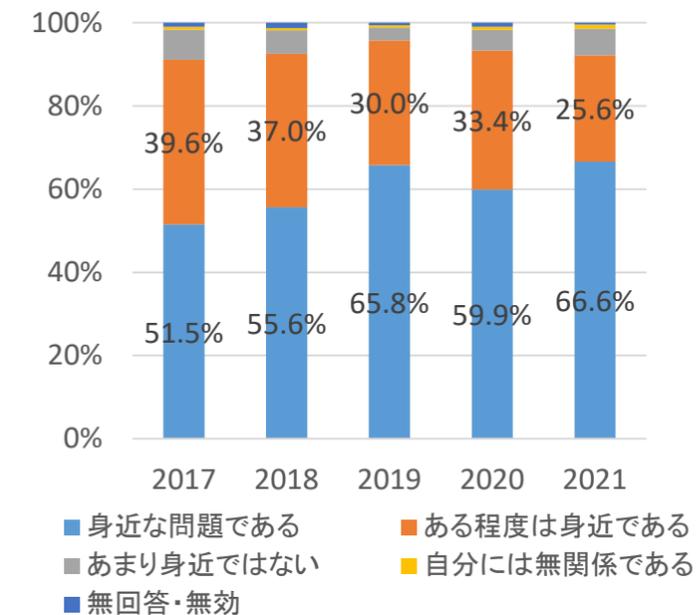
分野	2021年度の実施状況 (適応策)
自然災害	<ul style="list-style-type: none"> ■ 水害対策 ✓ 国交省「先導的グリーンインフラモデル形成支援」の採択を受け、雨水浸透型花壇の雨水浸透・貯留機能に関する定量的な効果の検証のための調査を実施 ✓ 市内の気象や河川の情報を集約し、地震や水害などに関する情報を発信するホームページ「さっぽろ防災ポータル」を新設 ■ 土砂災害対策 ✓ かけ地防災情報の普及啓発として、一般市民向けの「かけ地防災市民カルテ」を作成
自然生態系	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生物多様性保全の普及啓発 ✓ ホームページでの広報に加え、カッコー先生公式ツイッターを開設 ✓ 円山動物園とカナダ・アシニボインパーク動物園における気候変動対策に関する協力に向けた覚書締結に関わるバーチャルシンポジウムを開催

5 市民アンケート結果抜粋

- 調査対象：住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民3,000人
- 調査期間：令和3年12月28日から令和4年1月28日
- 有効回答数：1,115人 (回答率37.2%)

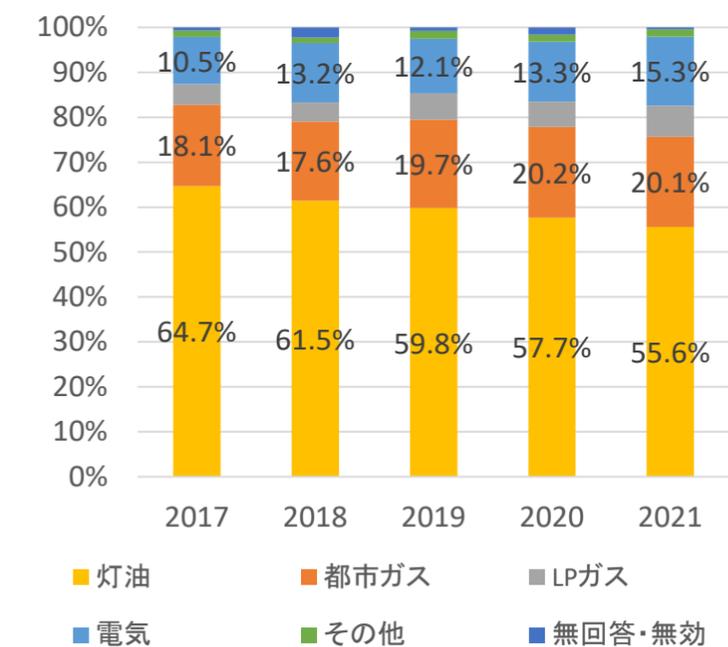
問 あなたは「地球温暖化による気候変動」を身近な問題だと思っていますか。

→ 「身近な問題である」の割合が6割以上



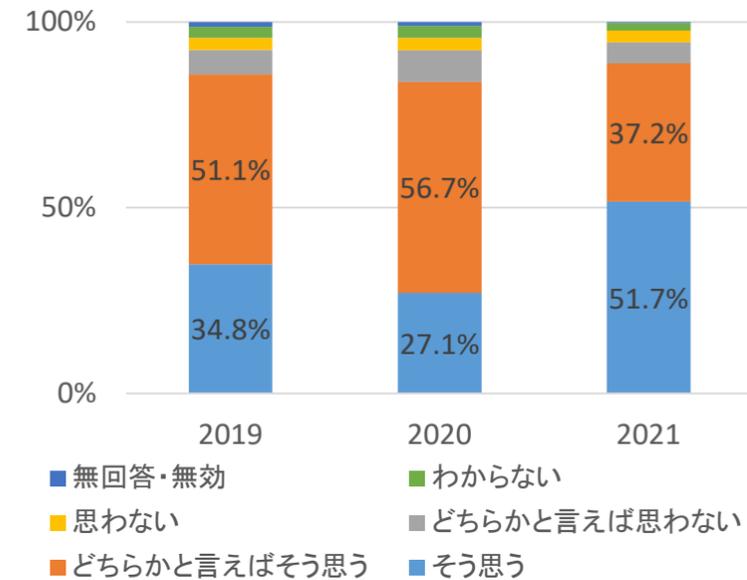
問 あなたの家庭では暖房にどのようなエネルギー・燃料を使用していますか。

→ 「灯油」が減少傾向だが5割以上



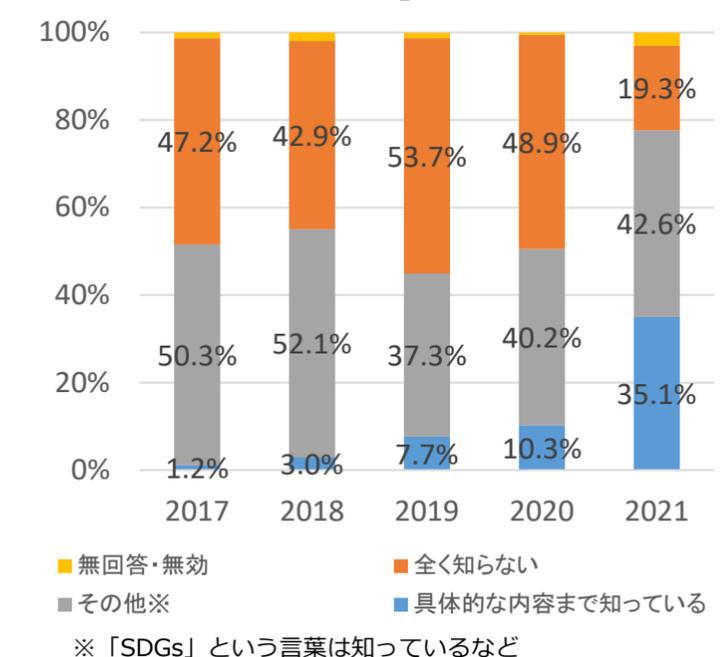
問 温暖化や気候変動の進行を食い止めるために、自身の暮らしや習慣を変えていかなければならないと思いませんか。

→ 「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」をあわせると9割弱



問 あなたはSDGsについて知っていますか。

→ 「具体的な内容まで知っている」が大幅に増加し、「全く知らない」が2割未満に減少



※ 「SDGs」という言葉は知っているなど